

# 巻頭言

## 「自然科学の法則」

理事長 新谷友良

私はどっぷりの文系人間で、理科方面は全くの苦手ですが、ずっと気に掛かっている自然科学の運動、法則があります。一つはブラウン運動、もう一つはエントロピー増大の法則です。

ブラウン運動は、「気体や液体の分子は、たえず熱運動をしています。そして気体中や液体中にある微粒子も、これらいくつかの分子に衝突され続けています。その結果、微粒子は不規則に動かされることとなります。このような微粒子の運動をブラウン運動といいます」と名古屋市科学館のホームページに説明が載っています。この現象を勝手にヒトの考え方や行動に当てはめて、微粒子（例えばヒト）が全く不規則に行動するようにみえるのは、私たちを取り巻く環境（分子の熱運動）の結果なのかと時々考えます。

もう一つはエントロピー増大の法則で、「エントロピーとは乱雑さの尺度である。秩序あるものは全て乱雑さが増大する方向に不可逆的に進み、その秩序はやがて失われていく」と福岡伸一が「動的平衡」に書いています。またその本には「生命は（中略）長い間エントロピー増大の法則と追いかけてくをしながら少しずつ分子レベルで損傷が蓄積し、やがてエントロピーの増大に追い抜かれてしまう。つまり秩序が保てない時が必ず来る。それが個体の死である」と書かれています。

エントロピー増大の法則がいつい「秩序あるものは全て乱雑さが増大する方向に不可逆的に進み、その秩序はやがて失われていく」のは、ブラウン運動のいう微粒子（ヒト）の不規則な動きが、分子を損傷させることが原因なののでしょうか。分子の熱運動が作りだした微粒子の不規則な動きが、一方では分子の作り上げた秩序を壊してしまう・・・、「不規則な動きと秩序」の関係が今一しっかりと理解できていません。

文系人間はアバウトで、ブラウン運動を「会者定離」（出会った者はいずれ別れる）、エントロピー増大の法則を「生者必滅」（命ある者はいつか必ず滅びる）と読みかえて何とか理解しようとしたのですが、やはり不正確なようです。編集部が無理をいって締め切りを延ばしてもらった5月号巻頭言ですが、書いていてまとまりがつかなくなりました。「会者定離」、「生者必滅」の生半可な理解の上に、「ブラウン運動」や「エントロピー増大の法則」を結びつけるのは、未熟で無謀な試みのようでした。